

647号

東部地域畜産経営技術推進指導協議会  
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会  
富山県西部家畜保健衛生所

2023.4.10

令和5年度 新スタッフ.....	1	県畜産関係職員人事異動 .....	5
令和5年度 富山県畜産振興推進方針 ...	2	防疫情報.....	6
令和5年度 主な畜産関係事業の概要 ...	3	高病原性鳥インフルエンザ発生状況.....	6
国内の鶏痘の発生状況について.....	4	お知らせ .....	6
畜産女性研修会を開催しました！ .....	4		

## 令和5年度新スタッフ

新年度を迎え、新しい体制がスタートしました。今年度も家畜伝染病の防疫対応、家畜の生産性向上、畜産物の安全・安心確保、畜産環境保全等に取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。

### 東部家畜保健衛生所

主任	主任	係長	獣医師	主任	主任
主任	係長	主任	副主幹	係長	
検査課長	次長	所長	防疫課長	環境課長	



### 西部家畜保健衛生所

主任	係長	嘱託	上席専門員	獣医師(育休)
主任	主任	係長	獣医師	主任
検査課長	次長	所長	防疫課長	環境課長



# 令和5年度 富山県畜産振興推進方針

今年3月、意欲ある担い手が生産拡大や競争力の強化に取り組める経営環境を実現し、富山の美味しい畜産物によって、生産者と消費者が幸せになれる、未来につながる畜産経営を目指して、令和5年度に向けた畜産振興の取組みとなる富山県畜産振興推進方針を策定しました。

今後は、関係機関・団体と協力し、目標達成のために各種施策を総合的に推進します。

## 1 基本方針

生産基盤の整備や飼養技術の高位平準化、飼料価格高騰対策などにより、経営の安定化を図るとともに、県産畜産物のブランド化、消費拡大を推進する。

高病原性鳥インフルエンザ、豚熱などの家畜伝染病防疫対策の強化などにより、発生予防とまん延防止に努める。

地域と調和した畜産経営を推進するとともに、畜産が持つ多面的機能を活用し、耕作放棄地等の有効利用など地域活性化の取組みを進める。

## 2 主要目標指標

区 分		令和5年度目標	(参考) 令和4年度見込
畜産物の生産量 (t)	生乳	12,700	12,611
	牛肉	620	615
	豚肉	4,300	4,249
	鶏卵	14,000	13,970
飼料自給率 (%) (飼料作物面積等から推定)		27.0	26.0
飼料用稲面積 (ha) (県内生産・流通)	飼料用米	1,000	916
	稲WCS	420	413
	計	1,420	1,329
水田放牧等の面積 (ha)		37.4	28.1

※ 令和5年度産出額の目標値は90億円(【参考】令和3年度:83億円)

## 3 重点推進事項

### 【生産基盤の強化】

- (1) 国の畜産クラスター事業等による施設・機械の整備や公共牧場の活用、畜産スマート技術の導入等への支援により、生産基盤の維持・拡大を推進。
- (2) 優良種畜(大家畜、豚、受精卵)や性判別精液の導入による家畜の改良増殖を推進。

### 【経営競争力の強化・新たな担い手の確保】

- (1) 畜産物の価格安定制度の活用や飼料等の価格高騰対策などにより経営安定を支援。
- (2) 「とやま和牛 酒粕育ち」等のブランド化や消費拡大の取組みを推進。
- (3) ㈱富山食肉総合センターでの安全安心な食肉の供給を支援。
- (4) 農場HACCPや畜産GAPの推進、新規就農希望者と遊休施設等のマッチング、法人化による経営継承など新たな担い手等の確保対策を推進。

### 【地域と調和した経営の推進】

- (1) 飼料用米・稲WCSの生産・利用の推進、未利用資源の活用による飼料自給率の向上や、良質堆肥を活用した耕畜連携による循環型農業を推進。
- (2) 家畜伝染病の発生予防とまん延防止のため、豚熱ワクチンの接種、野生動物の侵入防止、消毒徹底などの飼養衛生管理対策と防疫資材の確保など体制整備を推進。
- (3) 耕作放棄地等での簡易放牧や蜜源等としての活用を推進。

(農業技術課畜産振興班 後藤主幹)

令和5年度 主な畜産関係事業の概要 ※はR4年度2月補正			予算額 (千円)
家畜改良増殖 対策事業	大家畜牛群改良推進事業	乳用牛及び肉用牛の牛群能力の向上	2,353
	畜産共進会開催事業	県内で開催される共進会開催費への支援	295
	優良肉豚生産システム化事業	優良な肉豚を生産するために必要な種豚の導入等に対する支援	1,825
	優良牛群整備推進事業	酪農家や肉牛農家での受精卵移植技術の活用	4,698
畜産経営向上 対策事業	畜産経営総合指導体制整備強化事業	畜産コンサルタントによる総合支援指導	3,980
	畜産担い手ナビゲート事業	高校生の畜産体験、企業参入支援と情報一元化	461
	畜産環境保全指導事業	畜産環境問題等の発生防止のための総合指導	419
	養豚体制整備事業	国の「養豚経営安定制度」における生産者積立金への助成	9,100
	食肉衛生基盤強化事業	(株)富山食肉総合センターの施設整備、肉畜集荷対策への支援	32,941
飼料生産総合 対策事業	飼料利活用高度化事業	飼料作物の優良品種の選定、飼料・土壌等の成分分析	1,378
	牧場経営安定対策事業	公共牧場へ預託事業等の経費の一部助成、簡易放牧支援等	5,361
	④「とやまのエコフィード」利用畜産物ブランド化推進事業	エコフィードの需給マッチング、「とやま和牛 酒粕育ち」のブランド化推進と生産拡大支援	5,650
	富山のお米で育った「とやまポーク」販売促進事業	富山米を給与した「とやまポーク」の販売促進、飼料用米の利用拡大及び養豚の生産拡大	2,500
	⑤配合飼料価格高騰緊急支援事業※	生産コスト低減等の取組みを行う畜産農家に対し、奨励金を交付(対象はR5.第1・2四半期)	120,000
とやま畜産基 盤強化事業	畜産施設継承円滑化事業	遊休施設の継承に必要な用地等の調整(測量、地盤調査等)に対する支援	400
	富山の畜産DXスタートアップ事業	DX(デジタル化による変革)の活用方法や畜産農家での情報収集、整備計画等の作成	300
安心で美しい郷づくり事業		動物達とのふれあいに係る取組みや蜜源確保等	592
家畜伝染病予防事業		家畜伝染病予防法に基づく検査・指導等	30,070
家畜伝染病防疫体制強化整備事業		消毒機器等の整備、初動防疫体制の強化、防疫資材の備蓄、疾病迅速診断機器の整備 ⑥牛飼養農家の飼養衛生管理基準の遵守指導	4,906
豚熱ワクチン接種推進事業		豚熱ワクチン接種の推進とモニタリング検査	14,840
野生いのしし家畜伝染病防疫対策事業		野生いのししの豚熱及びアフリカ豚熱検査、診断機器の整備、病原体侵入の予防	9,024
畜産物安全性 確保総合対策 事業 (農産食品課)	飼料安全性確保強化指導事業	飼料の安全性確保と適正な使用・管理の指導	1,499
	動物医薬品取締指導	動物用医薬品の取締業務と適正使用の指導	567
	畜産物安全性確保対策事業	家畜衛生管理技術の向上のための指導・調査 豚丹毒ワクチンの接種費用の一部助成	7,339

詳細については、農業技術課畜産振興班、農産食品課食品安全係、広域普及指導センター、家畜保健衛生所にお問い合わせください。

(農業技術課畜産振興班 後藤主幹)



## 国内の鶏痘の発生状況について

鶏痘は鶏痘ウイルスによって鳥類に発痘を引き起こす伝染性疾病で、届出伝染病に指定されています。本病のほとんどは皮膚に発痘を認めるタイプのもので、写真矢印に示すように顔面皮膚の発痘および痂皮（かさぶた）形成が特徴的です。これらの症状に加えて産卵率の低下や死亡数の上昇を伴う場合もあることから、発生すると経営へのダメージが大きい疾病です。ワクチン接種の普及や衛生管理技術の向上により、昔に比べると発生ははかなり減少しているものの、国内では採卵鶏を中心に毎年15例前後の発生報告があり、県内では令和4年度2例発生しています。



発症鶏

鶏痘の発症にワクモの寄生が大きく関与することは以前より知られていますが、ワクモの寄生ストレスに伴う鶏の免疫低下に加え、鶏への吸血行為を通して鶏痘ウイルスの鶏舎内伝播（他の鶏群へのウイルス拡散）が感染拡大リスクを高めます。また、国内発症例に注目すると、比較的高日齢（400日齢以降）で発症する傾向にあり、ワクモ寄生に加えて加齢による各種病原体に対する基礎免疫の低下も発症の一因として考えられます。更に、近年では鶏痘ウイルスのゲノム内に細網内皮症ウイルス（REV）のゲノムが挿入されたウイルス株（REV挿入野外株）が確認されており、この野外株に感染し、鶏痘を発症した例が本県での発生を含め全国で散発していることから、この野外株が全国的にまん延していると考えられます。REV挿入野外株は鶏痘ウイルスの病原性を増強するという報告もありますが、既存のワクチンで十分な予防効果は得られます。確実な2回のワクチン接種と農場内の衛生対策を徹底し、発症予防に努めましょう。

（西部家保検査課 石原主任）

## 畜産女性研修会を開催しました！

東部及び西部地域畜産経営技術推進指導協議会主催の畜産女性研修会が、3月8日に呉羽ハイツで開催されました。新型コロナの影響もあり、4年ぶりの開催になりましたが、当日は、21名の参加者が集まり、研修と意見交換を行いました。研修会では、まず家畜保健衛生所から全畜種で義務付けされた飼養衛生管理基準について説明しました。次に農業技術課（当時）高平副主幹から昨年7月にデビューした「とやま和牛酒粕育ち」のブランド化への取組みの紹介があり、とても分かりやすく、皆さん関心をもって聴いておられました。また、意見交換会では、若い世代を中心に次の畜産女性の活動を進めてほしいという意見があったことから、今後の協議会の活動に活かしていきたいと思えます。

研修で学んだあとは、畜種をこえて畜産女性の皆さんが交流し、仕事の話だけではなく日常の悩みなど様々な話題で充実した時間を過ごすことができました。

今後も、富山の畜産を支える女性たちの意見交換の場を提供したいと思いますので、学んでみたいこと、共有したい話題などがありましたらお気軽にご意見をお寄せください。

（農業技術課畜産振興班 槻尾副係長）



研修会の様子



集合写真（皆さんでポーズ）

# 県畜産関係職員人事異動

4月1日及び3月31日(退職)付けで、以下のとおり県の畜産関係職員が異動しました。(敬称略)

区分	氏名	新所属	旧所属
農林水産部	津田 康志	農林水産部長	新型コロナウイルス対策監 厚生部次長事務取扱
	五十嵐 司	農林水産部次長 農林水産部参事(市場戦略推進担当)事務取扱	経営管理部参事 (富山県立大学へ派遣)
農産食品課	雄川 洋子	課長 兼 花総合センター所長	農業技術課長
農業技術課	尾島 輝佳	課長	農林水産企画課企画班長
	神吉 武	副主幹(畜産振興班)	東部家畜保健衛生所環境課長
	槻尾 里佳	副係長(畜産振興班)	東部家畜保健衛生所主任
	村田 伍輝	技師(畜産振興班)	新規採用
広域普及指導センター	齊藤 義晴	所長	農林水産企画課主幹 (農林水産公社へ派遣)
	上田 博美	副主幹普及指導員	農林水産総合技術センター 畜産研究所養豚課長
	高平 寧子	副主幹普及指導員	農業技術課副主幹
	青柳 浩	副主幹普及指導員	農林水産総合技術センター 畜産研究所副主幹研究員
農林水産総合技術センター	蓮沼 俊哉	企画管理部企画情報課統括研究員	西部家畜保健衛生所防疫課長
	菘和 誠也	畜産研究所副所長(昇任) 飼料環境課長事務取扱 兼 環境政策課	農業技術課広域普及指導センター 副主幹普及指導員
	四ツ島 賢二	畜産研究所 酪農肉牛課長	畜産研究所副主幹研究員
	稲畑 裕子	畜産研究所 養豚課長	西部家畜保健衛生所環境課長
	山科 一樹	上席専門員	畜産研究所副所長 飼料環境課長 事務取扱 兼 環境政策課主幹
	松原 禎敏	主任研究員	農業技術課主任普及指導員
東部家畜保健衛生所	森岡 秀就	所長	東部家畜保健衛生所次長 指導課長事務取扱
	清水 康博	次長(昇任) 指導課長事務取扱	農林水産総合技術センター 畜産研究所酪農肉牛課長
	本多 秀次	防疫課長(昇任) 併 生涯学習・文化財室主幹	農業技術課副主幹
	大島 典子	副主幹	新川厚生センター副主幹
	水木 亮史	環境課長(昇任)	東部家畜保健衛生所係長
	先名 雅実	係長 併 生涯学習・文化財室副係長	農業技術課主任
	田知 慶久	主任	西部家畜保健衛生所主任
	宮澤 馨	主任(昇任)	東部家畜保健衛生所獣医師
	長澤 健太	獣医師	西部家畜保健衛生所獣医師
古林 梨紗	獣医師 併 生涯学習・文化財室技師	新規採用	
西部家畜保健衛生所	池上 良	所長	西部家畜保健衛生所次長 指導課長事務取扱
	稲垣 達也	次長 指導課長事務取扱	東部家畜保健衛生所防疫課長
	飯田 佳代	防疫課長(昇任) 併 生涯学習・文化財室主幹	西部家畜保健衛生所検査課長
	野田 基子	検査課長(昇任)	西部家畜保健衛生所係長
	粕谷 健一郎	環境課長	農林水産総合技術センター 副主幹研究員
	宮本 剛志	係長 併 生涯学習・文化財室副係長	農林水産総合技術センター 主任研究員
	増永 梢	係長 兼 自然保護課 併 生涯学習・文化財室副係長	西部家畜保健衛生所主任 兼 自然保護課
	台蔵 正司	上席専門員	西部家畜保健衛生所所長(再任用)
	石原 未希	主任	東部家畜保健衛生所主任
	浅田 直美	主任	砺波工業高等学校主任
【転出】	高橋 涉	農林水産総合技術センター農業研究所副所長 栽培課長事務取扱	農業技術課広域普及指導センター 所長
	犀川 比早江	砺波出納室副主幹 兼 総合県税事務所砺波相談室	西部家畜保健衛生所副主幹
	相地 宏美	農林水産総合技術センター係長	東部家畜保健衛生所係長
【退職】	尾崎 学	退職	東部家畜保健衛生所所長
	開澤 浩義	退職	農業技術課広域普及指導センター 副主幹普及指導員
	吉野 英治	退職	農林水産総合技術センター 副主幹研究員
	竹内 俊彦	退職	東部家畜保健衛生所主任

# 防疫情報

## 全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）

（4月5日現在）

事例	発生月日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備考
78	3月6日	新潟県胎内市	採卵鶏	約68万羽	H5N1
79	3月12日	新潟県胎内市	採卵鶏	約33万羽	H5N1
80	3月14日	岩手県金ケ崎町	採卵鶏	約8.4万羽	H5N1
81	3月24日	青森県蓬田村	採卵鶏	約33万羽	H5N1
82	3月28日	北海道千歳市	採卵鶏	約55.8万羽	H5N1
83	4月3日	北海道千歳市	採卵鶏	約35万羽	H5N1
83'	(関連農場)	北海道千歳市	採卵鶏	約4万羽	—

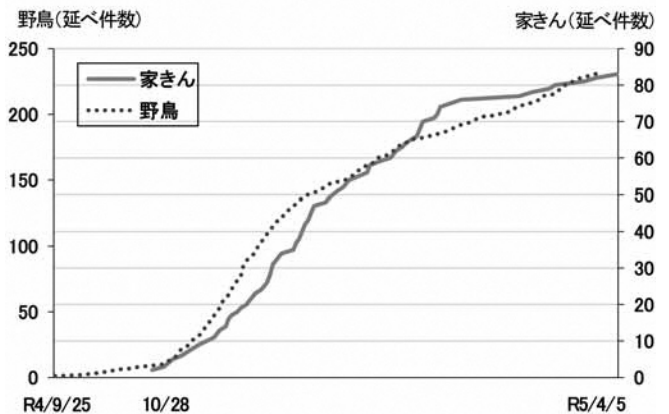
## 県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病名	畜種	発生月日	戸数	頭羽数	備考
牛パストレラ症	牛	2月26日	1	1	
		3月2日	1	1	
		3月9日	1	1	
牛ロタウイルス病	牛	3月3日	1	1	
牛マンヘミア症	牛	3月6日	1	1	
牛コクシジウム病	牛	3月9日	1	1	
牛の消化管内線虫症	牛	3月14日	1	1	
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	牛	3月14日	1	1	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	2月15日	1	1	と畜場発見
		2月22日	1	1	
		3月7日	1	1	
		3月16日	1	1	
山羊の消化管内線虫症	山羊	3月5日	1	1	
破傷風	山羊	3月25日	1	1	

## 高病原性鳥インフルエンザ発生状況

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザは家きんで83例、野鳥で231例が確認されています。右のグラフを見ると、野鳥では9月25日に神奈川県の高野からウイルスが検出されて以降、11月上旬から12月中旬にかけて急増し、その後はやや鈍化したもののほぼ一定のペースで発生が認められています。

家きんではこれまでで最速の10月28日に岡山県と北海道で初発があり、12月下旬まで急増、その後若干鈍化するも、2月上旬までハイペースで発生が続き、最近はやや落ち着きがみられますが、隣接の新潟県では3月に2例発生するなど、いまだに国内で散発的発生が確認されています。渡り鳥の北帰行が進んでいますが、今年は例年より多くの鳥種でウイルスが検出されています。今後も引き続き、本病の侵入防止対策の徹底をお願いします。



R4-5シーズンの高病原性鳥インフルエンザ発生状況

（農業技術課畜産振興班 神吉副主幹）

### ☆お知らせ☆

催事等	期日	場所
北陸三県和牛子牛市場	4月27日	北陸三県家畜市場（金沢市）

発行所 富山県東部家畜保健衛生所  
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6  
編集者 水木 亮史（富山県東部家畜保健衛生所）

http://www.pref.toyama.jp/cms\_sec/1687/  
電話 (076) 479-1106 FAX (076) 479-1140